



留萌市総合都市計画のあらまし



教育の場を充実

③ 学校配置計画



この子たちには輝く未来を

〈小学校〉
1 住区に、小学校 1 校あるのが理想である。
通学距離を 4K 以内とし、学級数 12~18 学級を基準として、この基準にあわせて適性配置をする。
〈中学校〉
2~3 住区に 1 カ所、通学距離 6K 以内の基準から、今後の人口増にあわせて配置を計画する

〈短期大学〉
市内高卒者の進学状況から、留萌管内を包含して短期大学を 1 校ていど設けたい。
〈保健所、幼稚園、児童館〉
現在、市内にある公私立 5 カ所のほかに、4~5 カ所の建設をしなければならないので、現在設置されていない住区に保育所、幼稚園、児童館のいずれか一つを設置する。

立体交叉、切替えなど大巾に

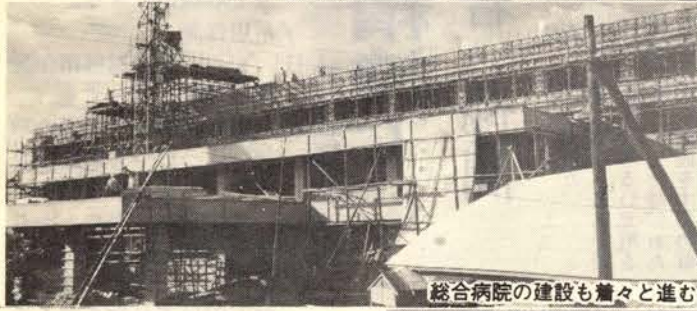
① 道路整備計画

道路は、産業振興のため欠くことの出来ない重要なものです。このため、30 年後の都市にあわせ、次のような道路計画が進められます。
〈国道 稚内-留萌線〉
すでに着工されている道路ですが、元川町の開発出張所西側から、留萌川を横断、国鉄留萌線を立体交叉し、留萌川右岸の傾斜地を通り、春日町入口で国鉄、天鉄を立体交叉して、いまの国道に連絡させる。あわせて三泊、塩見地区の路線の変更、拡巾、舗装をする。
〈国道 札幌-留萌線〉
まず、留萌中学校前を通る市道を国道に昇格し、神社下までの舗装をする。
次に、将来札幌-留萌線の開通にあわせ、大和田 8 線付近から、南町-自衛隊-工業高校-留中-沖見町火葬場附近-浜中礼受、阿分高台を通り-阿分ずい道付近で、国鉄線を立体交叉し、現在の国道に連絡する。

〈国道 旭川-留萌線〉
現在、開発建設部で計画していますが、改良及び舗装の早期実現によって、高速道路としての高度利用をはかる。
〈産業幹線道路-A〉
大和田 8 線-東雲工業団地-駅前-南岸壁-大町石油基地-瀬越-浜中立体交叉
この路線は、将来市内の産業開発上の重要路線となるので、道々に移管する。
〈産業幹線道路-B〉
副港東岸立体交叉-東岸船だまり-新北造船-元町-留萌橋-春日町入口の国道へ結ぶ。
この路線は、将来稚内、士別各寄地区と留萌を結ぶ産業路線となる。
〈市道〉
パンゴベ-かも岩-春日町を結ぶ臨周道路を新設する。
駅舎改築に伴い駅前広場を造成する（昭和 43 年度から着手）
このほか道路の巾員の拡大舗装化をはかる。

軽工業用地なども造成

④ 土地利用計画



総合病院の建設も着々と進む

〈住居地域〉
市内周辺に、いまより 161.2ha 拡張し、人口増による住宅地域を考え、とくに東雲工業地域には、従業員住宅団地を区画する
〈商業地域〉
花園地区の区画整理事業の完了にともなう商店街化と、五十嵐町-元川町間の国道両側の商

店進出を考慮する。
〈工業地域〉
木工、水産、石油、セメント関係企業の配置を計画。
〈準工業地域〉
家具、建具、板金、自動車修理工場など軽工業区画を考慮した。

大和田に総合グランド

② 公園・緑地計画

見晴公園）
千望台付近の開発にともないこれを頂点として、沖見町墓地丘陵地帯をふくめた自然と人工の景観を利用した公園とする。
〈高砂公園〉
駅前土地区画整理事業にあわせ、遊戯施設、管理施設などをつくる。
〈塩見町燈台公園と五十嵐公園〉
自然の景観を生かした塩見町燈台付近、それに由緒ある五十嵐邸付近に、それぞれの特徴ある公園を新規につくる。
〈藤山ダム〉
自然を背景とした、緑豊かな自然公園化をはかる。
〈墓地公園〉
沖見町の市営墓地は、今後見

晴公園との関連を持たせて、墓園として整備する。
なお、かも岩奥地に、あらたに墓園を作る。
〈運動公園〉
大和田 8 線、留萌川の切替えにより生じた埋立地を利用し、約 10ha の運動公園をつくり、野球、陸上競技、その他総合運動競技が可能な設備をする。
〈児童公園及び遊園地〉
小学校を単位として区分した 8~9 住区に、それぞれ 1 カ所は設けられるようにする。
〈緑地〉
街路樹、グリーンベルトが少ないので、街路の植樹とあわせ緑地帯を市内の南北方向に数条設ける。

近代的な火葬場を大和田に

⑤ 処理施設計画



やがて留萌港の出番がそこにある

〈尿処理場〉
将来、人口が増加した場合は現在の施設を拡張して 70t の能力とする。
〈じんかい焼却場〉
大和田 13 線に敷地約 1 万 m²、焼却炉 20 t 型 4 基、処理能力 70 t を設置、上家、管理人事務所駐在場、廃物処理施設などを設ける。

〈火葬場〉
沖見町の火葬場を廃止し、大和田 13 線の衛生センター付近に敷地 1500 m²、重油焼却釜 4 基を持つ近代的な火葬場を作る。

産業道路を環状に結ぶ

短期大学の設置なども

30 年後の理想郷をめざす

留萌地方の文化、経済の中心都市として、北海道北部開発に果たす港湾都市留萌の将来を作る「留萌市総合都市計画」が出来上がりました。
この計画は、ことしから昭和七十年の三十年をかけた進められるもので、今後の市政は、この計画をもとにして進められます。とくに、この計画では、大和田より西側の市街地について計画され、人口七万八千人、港湾貨物取扱量三百七十万 t、五百万 t に見合う都市づくりとなつていきます。なお、総合都市計画は、多くの紙数にわたりますが、その一部だけを紹介しました。